

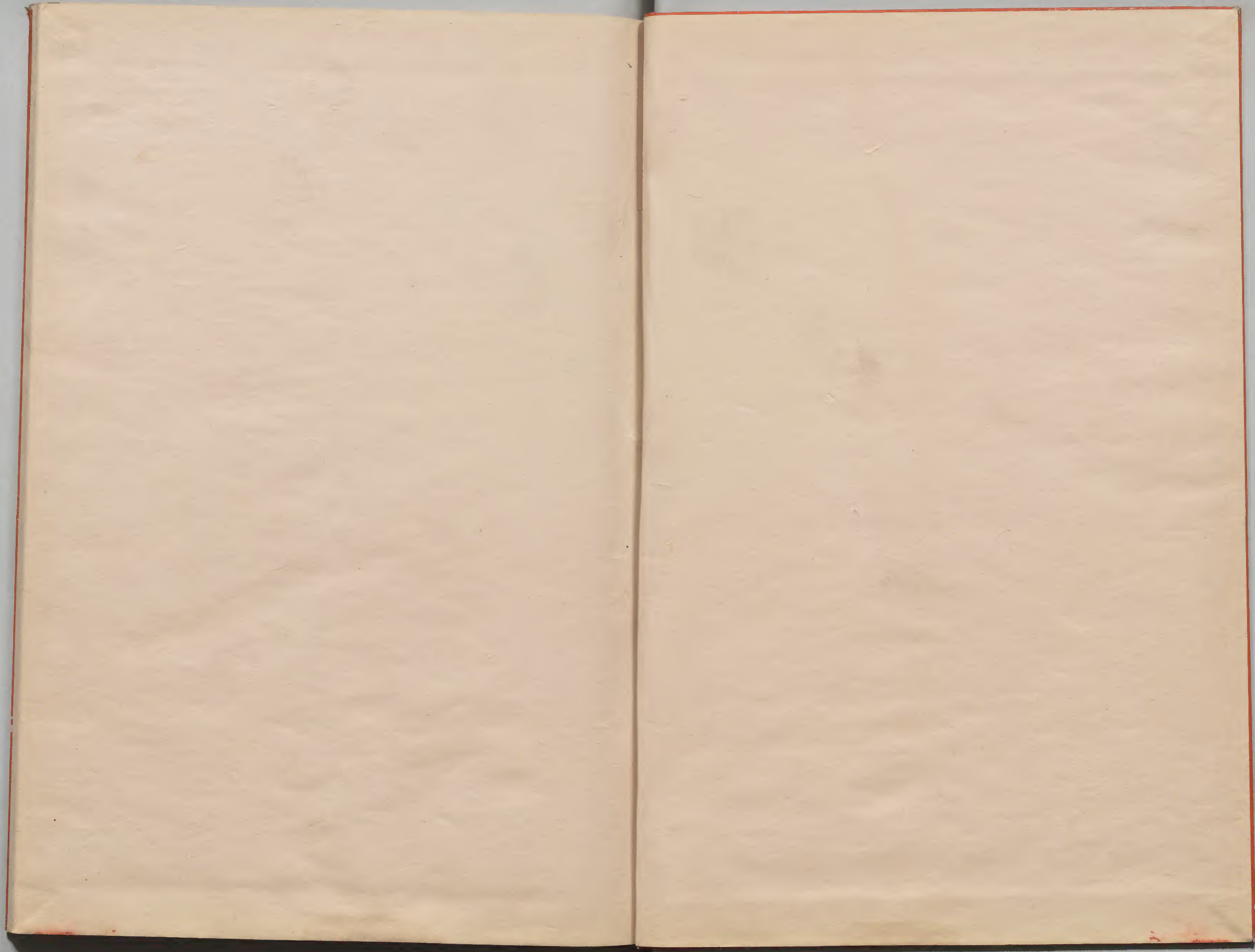
和書

和書門類			
二	一	二	二
一	〇	七	四
二	〇	九	七
册	架	函	號

內閣文庫			
九	四		和
九	七		書
函	二		
九	九		
架	册	號	類

內閣文庫	
番號	和 24729
冊數	212 (23)
函號	199 216

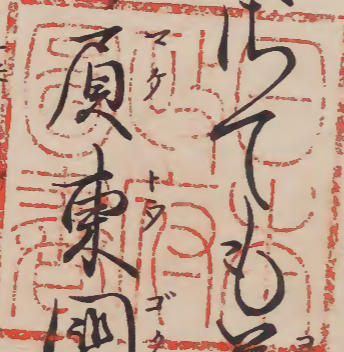




口キ
コ
コ

是ハ峯嶽清涼寺

淺草文庫



戦^セ打^チ原^マ東^ト國^{クニ}ノ落^{オチ}給^{タマ}ひ申^イ中^{ナカ}ニ
 也^{ナニ}次^ジ男^{ナニ}朝^ト長^{ナガ}美^ミの國^{クニ}あをまかの宿^{シヨク}
 少^シて自^ジ害^{ガイ}一^{イチ}果^{ハテ}終^{タマ}ひたる申^イ由^ユ也^{ナリ}
 我^{ワレ}らも朝^ト長^{ナガ}乃^{ナニ}ら白^{オシ}らるる者^{モノ}ニそん
 道^{ミチ}心^{ココロ}が乃^{ナニ}とてあましくまは法^{ホウ}松^{マツ}とも

別^トル^ラル^キ等^ト思^オり^イ立^タて^キ人^{ヒト}際^サを^シ江^カ
路^チや^キも^リの^ナ長^ナ橋^{ハシ}ら^ウわ^リも^チく^キ木^キ
行^ユき^キも^リの^ナ山^{ヤマ}老^オ僧^{ソウ}の^ナ森^{モリ}を^シ打^ウ
可^スそ^キの^ナ伊^イ吹^{フキ}の^ナ山^{ヤマ}凡^{カゼ}若^ニ破^ハの^ナ
開^ヒ路^ロを^シ過^ヒ行^ユあ^リと^シか^リの^ナ宿^{シュク}も^リ若^ニ若^ニ
よ^キも^リは^ナく^キ是^コハ^ナも^リあ^リと^シも
の^ナ宿^{シュク}も^リ若^ニ若^ニ人^{ヒト}

の^ナわ^リあ^リん^ナか^キ花^ハの^ナ松^{マツ}の^ナ松^{マツ}の^ナ松^{マツ}
花^ハの^ナ跡^{アト}も^リの^ナ松^{マツ}の^ナ松^{マツ}の^ナ松^{マツ}
あ^リと^シも^リは^ナく^キ是^コハ^ナも^リあ^リと^シも
よ^キも^リは^ナく^キ是^コハ^ナも^リあ^リと^シも
あ^リと^シも^リは^ナく^キ是^コハ^ナも^リあ^リと^シも
な^リと^シも^リは^ナく^キ是^コハ^ナも^リあ^リと^シも
人^{ヒト}の^ナ歎^{ナゲ}も^リは^ナく^キ是^コハ^ナも^リあ^リと^シも

者^{モノ}よそへんぐ^{オシ}御^{アト}跡^{トムラ}弟^イに^イら^イし^イ馬^{タメ}を^{コシ}
ま^シで^シま^シり^シて^シ作^シ ^{シテ}お^シわ^シり^シと^シお^シな^シり
の^{ヒト}や^{ヒト}ば^{ヒト}ら^{ヒト}て^{ヒト}船^{フネ}長^{ナガ}の^{ヒト}は^{ヒト}馬^{タメ}い^{ヒト}り^{ヒト}る^{ヒト}人^{ヒト}
ま^シて^シま^シー^シま^シひ^シご^シ ^{コキ}是^{コレ}ハ^{ヒト}船^{フネ}長^{ナガ}の^{ヒト}は^{ヒト}
船^{フネ}母^{ハハ}子^コあ^{ヒト}い^{ヒト}ぐ^{ヒト}と^{ヒト}者^{モノ}よ^{ヒト}そ^{ヒト}へ^{ヒト}ん^{ヒト}び^{ヒト}の^{ヒト}が^{ヒト}
は^{ヒト}ま^シり^シ有^{ヒト}て^{ヒト}伊^イ船^{フネ}長^{ナガ}給^{ヒト}り^{ヒト}ち^{ヒト}早^{ハヤ}十^{ジウ}ヶ^{ヒト}年^{ネン}
了^{ヒト}あ^{ヒト}ま^シち^{ヒト}が^{ヒト}様^{ヤウ}の^{ヒト}海^{ウミ}と^{ヒト}成^{ナリ}て^{ヒト}ん^{ヒト}ご^{ヒト}く

ふ^{ヒト}も^{ヒト}船^{フネ}下^{シタ}づ^{ヒト}船^{フネ}弟^イに^イら^イし^イだ^{ヒト}く^{ヒト}ハ^{ヒト}ん^{ヒト}び^{ヒト}つ^{ヒト}ま^{ヒト}
も^{ヒト}朝^{アサ}敵^{テキ}の^{ヒト}ゆ^{ヒト}り^{ヒト}ち^{ヒト}と^{ヒト}家^{イヘ}の^{ヒト}ち^{ヒト}を^{ヒト}も^{ヒト}
覚^{ユル}され^{ヒト}ら^{ヒト}同^{ドウ}抄^{セウ}行^{ギヤ}脚^{ツメ}ふ^{ヒト}ち^{ヒト}と^{ヒト}や^{ヒト}り^{ヒト}
悲^{ヒシ}び^{ヒト}く^{ヒト}下^ゲ向^{カウ}は^{ヒト}て^{ヒト}ん^{ヒト} ^{ツカマリ}は^{ヒト}り^{ヒト}て^{ヒト}ハ^{ヒト}船^{フネ}わ^{ヒト}ん^{ヒト}
た^{ヒト}る^{ヒト}船^{フネ}あ^{ヒト}い^{ヒト}ら^{ヒト}ち^{ヒト}う^{ヒト} ^{オホシ}思^{オモ}ひ^{ヒト}の^{ヒト}ち^{ヒト}を^{ヒト}
わ^{ヒト}ら^{ヒト}も^{ヒト}一^{イチ}舟^{フネ}の^{ヒト}船^{フネ}宿^{ヤド}ち^{ヒト}ふ^{ヒト}ち^{ヒト}の^{ヒト}ち^{ヒト}を^{ヒト}自^ジ
害^{ガイ}一^{ハテ}果^{タニ}終^エて^{ヒト}ん^{ヒト}は^{ヒト}身^ミの^{ヒト}船^{フネ}の^{ヒト}ち^{ヒト}を^{ヒト}も^{ヒト}

可もあひよあをさめりあいの
ちる草の蔭の青はぐさう
名のうてさのころをあさ
らあから秋の葉風をこのやを
原の松までも久小却の夕燿一
月の雲とありき一色も秋
もあま松う神はなりを家く

一樹のつばのやま地まの縁と
時と久きしとも二世の契り
まよ一葉たぐひよ愛よまきく
よあ秋も知も志の縁
そ程もるひまつせん
痛りや秋も本を徒の契
さしも二世の沙値遇
ハキセル

口キ河イカ
 なるふ作朝長乃侍家初乃名程
 妻く語つてはゆせんと入
 了りや言々年のは白の申入て
 口とあり事あくだく音す相ある
 らきと尋一は廻田殿と行れ
 従よつと用かひきと義具一は取
 人五人らふ入給ふ御船は親家
 鎌田今主あともやふらつと頼み
 ねぼやの月あはら船よる物のみま
 のうらえ入侍所あるまきと也又船長
 龍華こえよていばらくをま
 いはせごの煩ひ給ひけりお使人
 まはまつては船長乃侍こゝろて
 南をけは地はくこゝろを言ふ

すまじきおかしき法のおぼえ
感服もつらきものなりあく
あり有難き心ほろやも昔在り山
名法華今在り西京名所ふ池田は
現觀世音三世利益同一身まると
あるかみ成ありれ頼もやぶた
ぬある法乃法聲 地 我今三丘

楊枝淨水 心耳を
まぬまの經の妙文感應まもよ
めいまおかしきありたものなり
やわかまやあ観音せんほり色
すまじき燃乃かき燃りあるままは
まじきれど物長の影のまじり
見し給も若く夢りまほり一の

やく 自他に死にスルニ
支那に紅丸ありて世路
よほまるともクマの白骨と
あはれに郊原に朽ぬ せのり
海平きたよして新家を守護
たてまつりて法代をらめ國家を
まげめて萬機をまげりともす
ほぢりよ保元平治の世のま

いふる時り来りも
まら馬のらとれども
到来あり 名に 中
よひる石山寺よこもわ
多勢よ争ひつねらあ
生栴那を終に後きれり
三男右兵衛作之は平兵衛の

千子わらわしむ都へうとらふ家
義和と見よわも世間のうまよ
むらさき長田を頼み給へ丸頼を
本もよめるそやとく討
まはひぬき長田とらひ
ひあてわが父と討せよ
あるあはれ世宿のありは志ある女

んがわらわしむ都へうとらふ家
の情のまうは長田とらひ
ぬき長田を頼み給へ丸頼を
本もよめるそやとく討
まはひぬき長田とらひ
ひあてわが父と討せよ
あるあはれ世宿のありは志ある女

ちぬあがれぬ新をあらてむとたむ
 やしむれを新の平あれむも
 びつらるるを新の路ら
 せそらるるを江路を志のき来て此
 あをえかまらるるを新の平に
 らむもわると思ひ定めて腹一文字
 下りてきく其まゝに新の道に
 ちぬあがれぬ新をあらてむとたむ
 やしむれを新の平あれむも
 びつらるるを新の路ら
 せそらるるを江路を志のき来て此
 あをえかまらるるを新の平に
 らむもわると思ひ定めて腹一文字
 下りてきく其まゝに新の道に

ちぬあがれぬ新をあらてむとたむ
 やしむれを新の平あれむも
 びつらるるを新の路ら
 せそらるるを江路を志のき来て此
 あをえかまらるるを新の平に
 らむもわると思ひ定めて腹一文字
 下りてきく其まゝに新の道に

